

|| 企業調査レポート ||

イー・ガーディアン

6050 東証 1 部

[企業情報はこちら >>>](#)

2018 年 6 月 25 日 (月)

執筆：客員アナリスト

角田秀夫

FISCO Ltd. Analyst **Hideo Kakuta**



FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

目次

■ 要約	01
1. 事業概要	01
2. 業績動向	02
3. 成長戦略	02
■ 会社概要	03
1. 会社概要と沿革	03
2. 事業概要	04
■ 業績動向	06
1. 2018年9月期第2四半期の業績	06
2. 2018年9月期の業績予想	07
■ 成長戦略	08
1. 大阪 GAMELABO 開設、社内 e スポーツチーム支援	08
2. AI・RPA 等のシステム活用による競争力の強化	09
■ 株主還元策	10

■ 要約

主力はゲームサポートとソーシャルサポート。第2四半期進捗率が 前年同期より高く、2018年9月期通期業績は上振れの可能性濃厚

イー・ガーディアン<6050>は、SNSやソーシャルゲームの運営者向けに監視や顧客サポートなどのサービスを提供する総合ネットセキュリティ企業である。1998年にコンテンツプロバイダとして誕生し、インターネット業界の創成期に様々な新事業を手掛けるなかで2005年に掲示板投稿監視事業に一本化し、イー・ガーディアン株式会社に商号変更した。2010年に東証マザーズに上場してからは、ネット監視事業のイーオペ(株)^{※1}、人材派遣業の(株)パワーブレイン^{※2}、デバッグ事業^{※3}のトラネル(株)、HASHコンサルティング(株)^{※4}、(株)アイティエスをグループ化し、E-Guardian Philippines Inc.を設立するなど事業領域を拡大し、“総合ネットセキュリティ企業”としての基盤を確立した。現在は関係会社7社、全国6都市(東京、大阪、宮崎、熊本、仙台、郡山)及びフィリピンに拠点をもち、1,178名の従業員(うち臨時従業員数919名)を抱える企業グループとなっている。2016年9月に東証1部に昇格した。

※1 イーオペは現在のイー・ガーディアン東北(株)

※2 パワーブレインは現在のEGヒューマンソリューションズ(株)

※3 デバッグ(debug)とは、コンピュータプログラムに潜む欠陥を探し出して取り除くこと

※4 HASHコンサルティングは現在のEGセキュアソリューションズ(株)

1. 事業概要

主力事業は、ソーシャルサポート事業とゲームサポート事業である。ソーシャルサポート事業は、投稿掲示板やブログ・SNSなどのコミュニティサイトなどを対象に監視・カスタマーサポート、運用、分析といった多種多様な業務を代行する。厳選された人材による監視サービス(有人監視)が基本であるが、その効率を上げるために専門特化した監視ツール(システム監視)も併用される。独自開発されたAI(人工知能)システムにより低コストかつ高品質なサービス提供をするうえで武器になっている。LINEカスタマーコネクト関連サービスや仮想通貨取引の本人認証サービスも加わり、時代とともに監視系業務からカスタマーサポート系業務にシフトしている。

ゲームサポート事業は、オンラインゲームを運営するクライアントに対し、問い合わせ対応を始めとする運営をサポートするとともに、デバッグ等の周辺業務も請け負う。ゲームをリリースする前に行うデバッグ作業からリリース後の問い合わせ対応までをワンストップで提供できる体制を整え、他社との差別化を狙う。両事業を合わせて売上高全体の73.2%を占める。

要約

2. 業績動向

2018 年 9 月期第 2 四半期の連結業績は、売上高が前年同期比 21.2% 増の 2,926 百万円、営業利益が同 35.1% 増の 520 百万円、経常利益が同 30.4% 増の 533 百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益が同 31.6% 増の 364 百万円と大幅な増収増益となった。売上面では、すべてのセグメントが順調に拡大した。特に成長著しいゲームサポート事業では、モバイルゲーム市場が順調に拡大するなかで海外ゲーム企業の日本参入に伴う多言語カスタマーサポート業務受託が成長のドライバーとなっている。ソーシャルサポート事業では、仮想通貨関連の本人認証業務の受託が伸びている。利益面では、大阪 GAMELABO とイー・ガーディアン東北の郡山センター開設により人件費やオフィス費用などが増加したが、増収効果が上回り、大幅増益となった。

2018 年 9 月期通期の連結業績予想は、売上高が前期比 16.6% 増の 5,910 百万円、営業利益が同 13.8% 増の 923 百万円、経常利益が同 10.2% 増の 926 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が同 6.7% 増の 611 百万円と期初の予想を据え置いた。通期の売上高計画に対する第 2 四半期進捗率は 49.5% (前年同期実績は 47.7%) と順調である。営業利益に関しては第 2 四半期進捗率が 56.4% (前年同期実績は 47.5%) とさらに上振れている。M&A や拠点投資などにも影響される面があるが、このまま順調に推移すれば、例年どおり第 3 四半期時点で業績の上方修正が行われると推測する。ちなみに、同社は過去 3 年間 (2015 年 9 月 - 2017 年 9 月期) に第 3 四半期の決算時に上方修正を行っている。

3. 成長戦略

同社は、2018 年 4 月に大阪梅田に「大阪 GAMELABO」を開設した。同社が手掛けているゲームサポート分野では、VR や AR、e スポーツなどゲーム自体の種類が多岐にわたり、専門性が益々求められるようになっている。この新施設は、ゲームに精通した人員のみで構成し、ゲーム関連サービスのハブ拠点と位置付ける。

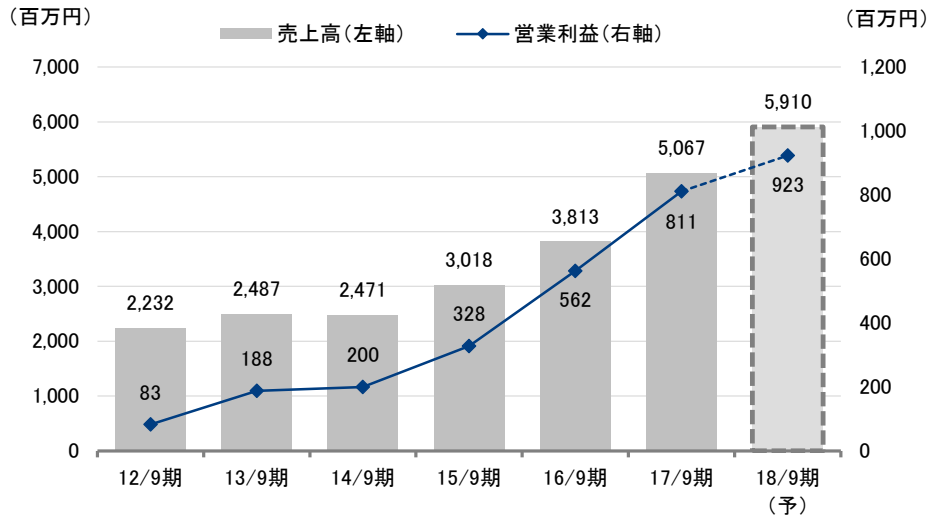
同社は 2017 年 9 月、e スポーツチーム「e-Guardians (イーガーディアンズ)」を創設しており、新施設はチームの練習拠点としても重要な役割を果たす。ゲーム関係の業務に従事する社員の多くがゲーム好きであることから、社員から選抜し公式大会本選出場を目指している。会社側で大会参加費や渡航費用などを支援し、試合前の練習時間や大会出場期間も業務時間とみなすなど、選手をサポートする環境作りに努め、「e-Guardians」を通して新たな働き方を発信したい考えだ。「大阪 GAMELABO」開設後の人材募集には多くのゲーム好きな人材の募集があり、新規採用での手応えは十分である。

Key Points

- ・ 主力はゲームサポートとソーシャルサポート。全セグメントとも成長性が高い。監視系業務からカスタマーサポート系業務にシフトする傾向
- ・ 第 2 四半期進捗率が前年同期より高く、2018 年 9 月期通期業績は上振れの可能性濃厚
- ・ ゲーム関連サービスのハブ拠点「大阪 GAMELABO」開設。社内 e スポーツチームの練習拠点としても活用

要約

通期業績の推移



出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 会社概要

“We Guard All” を経営理念に、 ネット監視事業最大手から総合ネットセキュリティ企業に進化

1. 会社概要と沿革

同社は、「“We Guard All” すべてのインターネット利用者に、安心・安全を提供します」を経営理念に掲げる、総合ネットセキュリティ企業である。1998年にコンテンツプロバイダ事業を主とするITベンチャー（旧社名：株式会社ホットポット）として誕生した。インターネット業界の創成期に様々な新事業を手掛けるなかで、2005年に掲示板投稿監視事業に一本化し、イー・ガーディアン株式会社に商号変更、その他の事業は売却している。2010年に東証マザーズに上場してからは、ネット監視事業のイーオペを完全子会社化（2012年、現イー・ガーディアン東北）、人材派遣業のパワーブレインを完全子会社化（2014年、現EGヒューマンソリューションズ）、デバッグ事業のトラネルを会社分割（2014年）、HASHコンサルティングを完全子会社化（2015年、現EGセキュアソリューションズ）、デバッグ事業のアイティエスを完全子会社化（2017年）と、M&A及び会社分割を行いながら、E-Guardian Philippines Inc. を設立するなど事業領域を拡大し、“総合ネットセキュリティ企業”としての基盤を確立した。現在は関係会社7社、全国6都市（東京、大阪、宮崎、熊本、仙台、郡山）及びフィリピンに拠点をもち、1,178名の従業員（うち臨時従業員数919名）を抱える企業グループとなっている。2016年9月に東証1部に昇格した。

主力はゲームサポートとソーシャルサポート。 全セグメントとも成長性が高い。 監視系業務からカスタマーサポート系業務にシフトする傾向

2. 事業概要

同社は4つの事業から成る。売上の主力はソーシャルサポート事業とゲームサポート事業であり、両事業で売上構成の73.2%を占める。4事業ともに成長性が高い。

ソーシャルサポート事業は、投稿掲示板やブログ・SNSなどのコミュニティサイトなどを対象に監視・カスタマーサポート、運用、分析といった多種多様な業務を代行する。厳選された人材による監視サービス（有人監視）が基本であるが、その効率を上げるために専門特化した監視ツール（システム監視）も併用される。独自開発されたAIシステムにより低コストかつ高品質なサービス提供をするうえで武器になっている。2017年に開始したLINEカスタマーコネクト関連サービスや仮想通貨取引の本人認証サービスもこの事業に含まれる。時代とともに監視系業務からカスタマーサポート系業務にシフトしている。全社売上の32.1%（2018年9月期第2四半期）を構成する。前年同期比で9.1%の成長である。

ゲームサポート事業は、オンラインゲームを運営するクライアントに対し、問い合わせ対応を始めとする運営をサポートするとともに、デバッグ等の周辺業務もトラネルを中心に展開する。ゲームをリリースする前に行うデバッグ作業からリリース後の問い合わせ対応までをワンストップで提供できる体制を整え、他社との差別化を狙う。全社売上の41.2%（同）を占め、同社最大の事業である。前年同期比では21.0%増収と成長性も高い。

アド・プロセス事業は、広告審査業務を始め、広告枠管理、入稿管理、広告ライティング等の業務を提供する。同社センターで請負う場合と派遣・常駐する場合がある。全社売上の12.1%（同）である。前年同期比で9.6%の成長である。

上記3事業の事業モデルの特徴は、対応量（件数）に応じた課金体系であり、リーズナブルな料金で専門的なサービスを受けられ、導入までのスピードが速いのも同社の特徴である。

その他事業は、人材派遣業務を行う子会社のEGヒューマンソリューションズ（旧パワーブレイン）や、脆弱性診断やセキュリティ対策サービスを展開する子会社のEGセキュアソリューションズ（旧HASHコンサルティング）、ハードウェアのデバッグ事業のアイティエスなどの業績などが含まれる。全社売上の14.7%（同）である。今期はアイティエスの業績がフルで計上されるため、前年同期比81.8%増収と成長性が最も高い。

イー・ガーディアン | 2018年6月25日(月)
 6050 東証1部 | <https://www.e-guardian.co.jp/ir>

会社概要

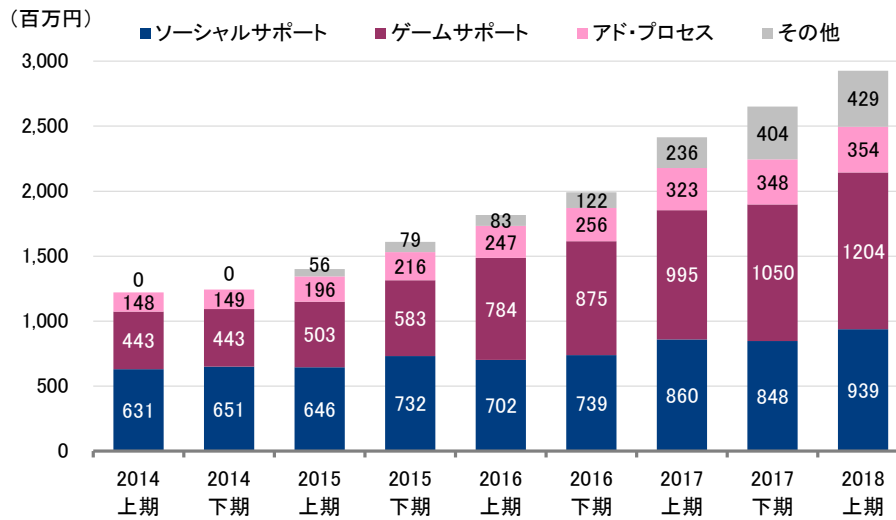
セグメント別売上高 (2018年9月期第2四半期)

(単位: 百万円)

主な事業会社	18/9期2Q	
	実績	売上比
ソーシャルサポート イー・ガーディアン(株) イー・ガーディアン東北(株) トラネル(株) E-Guardian Philippines Inc.	939	32.1%
ゲームサポート イー・ガーディアン(株) イー・ガーディアン東北(株) トラネル(株) E-Guardian Philippines Inc.	1,204	41.2%
アド・プロセス イー・ガーディアン(株) イー・ガーディアン東北(株) E-Guardian Philippines Inc.	354	12.1%
その他 EGセキュアソリューションズ(株) EGヒューマンソリューションズ(株) リアルレピュテーションリサーチ(株) (株)アイティエス	429	14.7%
合計	2,926	100.0%

出所: 決算短信よりフィスコ作成

セグメント別売上高推移



出所: 決算短信よりフィスコ作成

■ 業績動向

2018年9月期第2四半期は4セグメントとも拡大し大幅な増収増益。 主力のゲームサポートが特に好調

1. 2018年9月期第2四半期の業績

2018年9月期第2四半期の連結業績は、売上高が前年同期比21.2%増の2,926百万円、営業利益が同35.1%増の520百万円、経常利益が同30.4%増の533百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益が同31.6%増の364百万円と大幅な増収増益となった。

売上面では、すべてのセグメントが順調に拡大した。特に成長著しいゲームサポート事業では、モバイルゲーム・ソーシャルゲームの市場が順調に拡大。その中で中国系、韓国系など海外ゲーム企業の日本参入に伴う多言語カスタマーサポート業務が成長のドライバーとなっている。ソーシャルサポート事業では、仮想通貨関連の本人認証業務の受託が伸びている。その他事業では2017年1月に連結子会社化したアイティエスの売上げが加算され増収となった。

利益面では、大阪 GAMELABO とイー・ガーディアン東北の郡山センター開設により人件費やオフィス費用などが増加したが、増収効果が上回り、大幅増益となった。従業員数は2017年3月末に966名、2017年9月末に1,075名、2018年3月末に1,178名と半期毎に100名程度増加しており採用は順調だ。

2018年9月期第2四半期業績

(単位：百万円)

	17/9期2Q		18/9期2Q		前期比
	実績	対売上比	実績	対売上比	
売上高	2,415	100.0%	2,926	100.0%	21.2%
売上原価	1,571	65.1%	1,894	64.7%	20.6%
売上総利益	843	34.9%	1,032	35.3%	22.3%
販管費	458	19.0%	511	17.5%	11.6%
営業利益	385	16.0%	520	17.8%	35.1%
経常利益	409	16.9%	533	18.2%	30.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	276	11.5%	364	12.4%	31.6%

出所：決算短信よりフィスコ作成

第2四半期進捗率が前年より高く、 2018年9月期通期業績は上振れの可能性濃厚

2. 2018年9月期の業績予想

2018年9月期通期の連結業績予想は、売上高が前期比16.6%増の5,910百万円、営業利益が同13.8%増の923百万円、経常利益が同10.2%増の926百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が同6.7%増の611百万円と期初の予想を据え置いた。

同社の事業を取り巻く市場環境は引き続き良好だ。ソーシャルサポート事業においてはソーシャルメディアや仮想通貨の進展が追い風となる。2018年1月に仮想通貨の不正流出が問題となったが、認知度が上がったこともあり同社が受託する本人認証業務の増加ペースは衰えていない。モバイルゲーム市場（ゲームサポート事業）、インターネット広告市場（アド・プロセス事業）も成長が続く。また、ネットを不安やストレスなく使いたいというエンドニーズ、顧客企業の働き方改革によるBPOニーズは高まっており、総合ネットセキュリティ企業である同社の活躍の場も増えていると推察される。

通期の売上高計画に対する第2四半期進捗率は49.5%（前年同期実績は47.7%）と順調である。営業利益に関しては第2四半期進捗率が56.4%（前年同期実績は47.5%）とさらに上振れている。M&Aや拠点投資などにも影響される面があるが、このまま順調に推移すれば、例年どおり第3四半期時点で業績の上方修正が行われると推測する。ちなみに、同社は過去3年間（2015年9月期－2017年9月期）に第3四半期の決算時に上方修正を行っている。

2018年9月期通期業績予想

（単位：百万円）

	17/9期		18/9期			
	実績	対売上比	予想	対売上比	前期比	2Q進捗率
売上高	5,067	100.0%	5,910	100.0%	16.6%	49.5%
営業利益	811	16.0%	923	15.6%	13.8%	56.4%
経常利益	840	16.6%	926	15.7%	10.2%	57.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	572	11.3%	611	10.3%	6.7%	59.6%

出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 成長戦略

ゲーム関連サービスのハブ拠点「大阪 GAMELABO」開設。 社内 e スポーツチームの練習拠点としても活用

1. 大阪 GAMELABO 開設、社内 e スポーツチーム支援

同社は、2018年4月に大阪梅田に「大阪 GAMELABO」を開設した。同社が手掛けているゲームサポート分野では、VRやAR、eスポーツなどゲーム自体の種類が多岐にわたり、専門性が益々求められるようになってきている。この新施設は、ゲームに精通した人員のみで構成し、ゲーム関連サービスのハブ拠点と位置付ける。

同社は2017年9月、eスポーツチーム「e-Guardians（イーガーディアンズ）」を創設しており、新施設はチームの練習拠点としても重要な役割を果たす。ゲーム関係の業務に従事する社員の多くがゲーム好きであることから、社員から選抜し公式大会本選出場を目指している。会社側で大会参加費や渡航費用などを支援し、試合前の練習時間や大会出場期間も業務時間とみなすなど、選手をサポートする環境作りに努め、「e-Guardians」を通して新たな働き方を発信したい考えだ。「大阪 GAMELABO」開設後の人材募集には多くのゲーム好きな人材の募集があり、新規採用での手応えは十分である。

コンピューターゲーム・ビデオゲームを使った対戦形式のスポーツ競技「eスポーツ」は、2022年のアジア競技大会の正式種目に採用されるなど、国際的にエンタテインメントコンテンツとして注目が高まる。欧米や中国では高額な賞金をかけた大規模な大会も開かれ、ゲーム会社から支援を受けるプロ選手も急増している。2016年のeスポーツの市場規模は約4億9300万ドル（Newzoo調査）、2021年は約16億5000万ドルに達すると予測されている。

国内事業所の拡張

ゲームサポート業務に特化した 大阪GAMELABOを開設



ゲームに精通した人員を中心に構成し ゲーム関連サービスを推進

出所：決算説明会資料より掲載

2. AI・RPA等のシステム活用による競争力の強化

同社は、人材による監視（有人監視）と、人的サービスの効率を上げるために専門特化した監視ツール（システム監視）を併用することで高品質かつ高効率なサービスを提供する。また、監視以外の業務においてもRPA（Robotic Process Automation）を導入し業務の自動化を図っていく考えだ。

E-Tridentは、2011年に同社が独自開発したAI（人工知能）型自動テキスト投稿監視システムである。常に最新のNGワードが更新され、AI機能による自己学習で監視の精度が自動的に上がっていくという特徴がある。

ROKA SOLUTIONは、2014年に東京大学との共同研究により生まれたAI型の画像認識システムであり、低コストかつ高品質な画像識別が可能である。ビッグデータ解析や児童ポルノ取締まり、模造品検知などの監視を始め、最近ではおすすめアイテム選出など顧客接点での活用など様々な用途で活躍している。

2017年にサービス開始されたAIシステム「Kiducoo AI（キツコウ エーアイ）」は最新の物体検知アルゴリズムを採用し、SNSやインターネット広告などの画像データに含まれる要素を自動解析し、タグ付けすることができる画像内物体検知システムである。画像に「何が写っているか」「どこに写っているか」の分析を得意とするため、特定ターゲットにとってのトレンドや特定シーンでの使用商品の傾向等を導き出し、マーケティングデータの収集に役立つ。

2018年からは、RPA（Robotic Process Automation）を活用した業務の自動化に本格的に取り組む。同社はこれまでも独自の業務分析専門チームが顧客企業に入り込み、顧客企業毎に業務フローや基準書・マニュアルを作り上げてきた。RPAツールは外部から調達を考えており、独自ツールの開発や外販は行わない方針。あくまでもサービスレベルの向上と業務の効率化が狙いだ。特にアド・プロセス分野では、広告代理店・メディア運営企業の働き方改革、労働時間縮小の潮流があり、RPAを活用した業務効率化のニーズが高い。

今後の展望

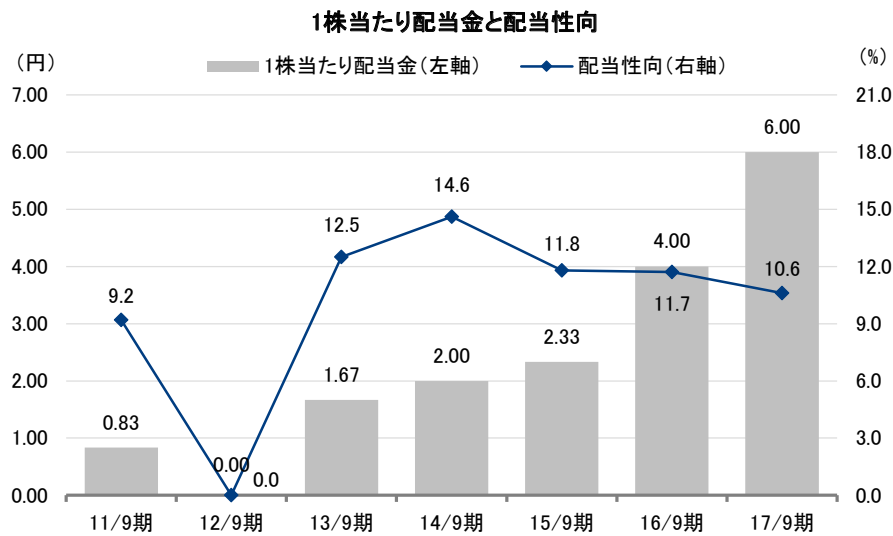


出所：決算説明会資料より掲載

株主還元策

2018年9月期は6年連続の増配を目指す（配当予想未公開）

同社は、当面成長への投資を優先するために利益の内部留保を基本とし、想定以上の利益を得た場合に配当を行う方針である。過去の実績としては、好調な業績を背景に2017年9月期まで5年連続増配を行っている。2017年9月期は配当金が年6円、配当性向は10.6%となった。2018年9月期の配当予想は公表していないが、利益予想が実現されれば増配と考えて間違いはないだろう。



出所：決算短信よりフィスコ作成

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ